

図書館通信 —48—

1979. 9

アメリカの大学図書館について

—ペンシルヴェニア大学の場合—

附属図書館長 豊川卓爾

昨年夏まで1年近くいたペンシルヴェニア大学の図書館について報告します。ここは、いわゆる Ivy League といわれる東部の伝統のある8大学(私立)〔Brown, Columbia, Cornell, Dartmouth, Harvard, Pennsylvania, Yale, Princeton〕の一つで、1740年ベンジャミン・フランクリン(1706~1790)によって創立された、全米で第5番目に古い大学です。フィラデルフィア市は、今でこそニューヨーク、シカゴ、ロスアンゼルスにつぐ人口順位第4位(200万)の都市ですが、19世紀まではN. Y. とならんで政治的・経済的・文化的中心地として栄え、独立革命の拠点であり、1790年から10年間(ワシントンに移るまで)首都でもあった古都です。N. Y. とワシントンとの間にあり、メトロライナーの列車で、それぞれ約1時間半、2時間の距離です。他の大都市にくらべ、日本人の数はケタはずれに少ないようです。

4つの undergraduate の学部 Arts and Sciences, Business (Wharton), Engineering and Applied Science, Nursing と、工学・応用科学、医学、歯学、獣医学、看護学、Social Work, 教育学、Law, Business (Wharton School) の各大学院から成っています。学部と大学院の比重が半々という、学生数約1万8000人の規模で、市の西方スクールキル河をこえた約20万坪のキャンパスいっぱいには古典的な建物とモダンな高層ビルが建ちなっています。都心までバスでも地下鉄でも約20~30

分の便利なところ。この School of Medicine は、アメリカ最古の医学部(1765年設立)で、野口英世が1900年(明治33年)から3年間助手として勉強したところで、我々にも興味深いところ。分。

Van Pelt Library というのが、中央図書館ですが、ここは主として人文・社会科学(法を除く)のライブラリーで、そのほか、アメリカでトップ・クラスのシェイクスピア図書を集めた Furness Library, 教会史の H. C. Lea Library, 化学史の E. F. Smith Library その他のいくつかのコレクションと約5万冊所蔵の Rare Book Collection がおかれています。医学、理学、工学、美術、音楽、情報科学などのライブラリーは各関係大学院におかれています。とくに、法律学については、Biddle Law Library として Law School 内にあり、約27万冊の蔵書をもっています。全学で、約250万冊の図書と約1万3000種類の定期刊行物を所蔵しています。トップ・クラスの有名私立大学に共通していることは、きわめてレベルの高い博物館と図書館、それに約5~6万人収容できるスタジアムをもっていることです。

1962年完成のこの中央図書館は、モダンで機能的な地下1階、地上6階建てで、開館時間は、月~木が8:45→24:00、金が10:00→22:00、土が10:00→18:00、日が12:00→24:00です。5月末から8月までの夏期休暇期間は、日曜休館

で月～金21:00まで。土・日の利用については、学生・教職員の場合は ID Card、卒業生・研究者・専門職の人および他大学の大学院生の場合は Library Courtesy Card の所持者に限られ、一般市民の利用は月～金のみとなります。全館開架・書庫への出入り自由ですから、退館時に出口で所持品のチェックをうけます。貸出はコンピューター処理で、4週間の貸出期間をこえると、返却されるまで1時間きざみで高くなる罰金(fine)をとられ、6週間をこすと紛失とみなされ、20ドルプラス罰金をとられます。学生の場合は、Student Deposit Account から引落されるしくみですが、こうした罰金のとり方(fine policy)は、大学によってちがうようです。

レファレンス、Online Search Service, Inter-library Loan, Data Services などの業務について述べる余裕はありませんが、とくに注目したいのは、ペンシルヴェニア州を中心に近隣の3州(デラウェア、メリーランド、ニュージャージー)の各種図書館60館が加盟している PALINET という地域図書館ネットワークが組織され、OCLC という大学図書館センターの目録データを利用するオンライン・サービス機構に参加していることと、共同利用図書館目録 Union Library Catalogue of Pennsylvania Philadelphia (PPULC) という州内と近隣の約200以上の図書館の約350万冊強の著者別総合目録をもっていることです。

コピー・サービスは、各階に数台のセルフサービスのコイン式コピー機があり、1枚5セント(約10円)で安いのですが、旧式で故障が多く、写りが悪いのが特徴です。日本の方がずっと進んでいるようで、コロンビア大、ワシントンの議会図書館 Library of Congress, ニューヨーク公立図書館やカナダのトロント大など、私の知るかぎり、みな大差ありません。1枚10セントのところが多く、セルフ・サービスのないところは、1枚30セントが普通です。

中央図書館では、無料配布のライブラリー・ガイドのほか、秋と春の各学期 Semester のはじめに必ずライブラリー・ツア(バス)およびオリエンテーションが徹底して行われ、学内ばかりでなく、分野によっては市内の他の大学や研究機関、例えばペンシルヴェニア歴史協会、ライブラリー・カンパニー、アメリカ哲学協会などの専門的ライブラリーへの案内も行っています。

アメリカの都市は、大小を問わず各地にこの Historical Society があり、その地方の1次史料や文

献、フォークロアの資料を熱心に収集していますが、ここの歴史協会は1824年創立で、もっとも古く、有名なライブラリーです。アメリカ哲学協会は、ベンジャミン・フランクリンが1744年全米ではじめてつくった学術団体であり、思想史のライブラリーとして有名ですし、Library Company of Philadelphia は、1731年やはりフランクリンの提案で設立された、図書館史上画期的な最初の会員制図書館であるとともに、最初の公共図書館として有名で、図書館の歴史の本には必ずでてくるライブラリーです。今は都心にある歴史協会の建物とならんで建っており、少し離れた哲学協会のライブラリーとともに、アメリカの初期のイースト・コーストの政治・経済・文化の歴史の研究には、不可欠のライブラリー・グループです。

最後に、他の大都市の大学同様、各種の犯罪にたいする専門部局が設けられ(Department of Public Safety)、24時間勤務についており、学生にたいする予防教育やアフター・ケアに当たっています。図書館などおそくまで残っている女子学生にたいする夜間のエスコート・サービスも担当しています。夕方から、学生・教職員用の無料のキャンパス・バスのサービスもあり、駅～大学周辺地区を走っています。キャンパス内の盗難や暴力犯罪、とくに性犯罪は、しばしば起るわけではありませんが、ときどき起ります。そのたびに、日刊(月～金)の8ページ建の学生新聞(1885年創刊)や女子学生の団体等が、大学当局に対策の強化を求めています。余り進歩はないようです。それでも女子学生たちは、深夜まで図書館でがんばって勉強しています。

図書館員の地位の高さ、質量ともに高い水準のサービス、学生・研究者の利用度の高さは、みなたがいに関連しあっているのですが、私たちが追求すべき問題点の多くをいろいろ教えてくれるようです。このことは、財政や制度の面ばかりでなく、カード・カタログ室のたくさんの大きな机の下に、使用済みのカードや白い紙を、メモ用紙として備えつけ、毎日欠かさず補充しているような、キメ細かなサービスも含めてのことですが……。

(1979, 9)

— ロシア と 日本 —

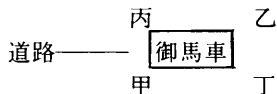
久保英雄

わが国の近代文学の成立に、ロシア文学が果たした役割についてはよく知られている。が、それ以外にも日本とロシアとのつながりは、一般に考えられているよりは、長く、かつ深いようである。

1703年にピョートル一世は「西欧への窓」として泥濘の地に大理石の都、ペテルスブルク(ピョートルの町のドイツ語風な、つまり、ハイカラな呼称)を建設するが、その二年後には日本語学校を開設している。因みに、東京外国語学校に露語科ができるのはこれより150年余り後のことである。

ロシアの使節、ラクスマンが来訪したのは、ペリーの浦賀来航に先立つこと61年、1792年のことである。「黒船」はアメリカよりロシアのほうが先に来たのであるが、和親条約は、米・露ともに1854年になる。

自由民権運動は、普通考えられているよりは、ロシア「虚無党」の影響を多くうけている。「昔思へばアメリカの、独立したのも蓆旗、ここで血の雨ふらさねば、云々」という有名な民権数え歌は、1775年の「昔」に始まった独立戦争よりは、むしろ、1881年(明治14年、自由党成立の年)のアレクサンドル二世暗殺にいたるナロードニキの運動に、より直接的な影響をうけていたことの証左である。運動の思想的内容としても “No representation, no taxation” よりは、「農民・インテリゲンツィア・専制」という問題をめぐって行われたナロードニキの運動のほうが、当時の民権運動に重なりあう部分がより多かったのは理の当然であろう。



このような図を描いて、天皇に「爆烈弾」を投げつける計を練っていた管野すかの頭に、ナロードニキの花、ソフィア・ペロフスカヤの姿があったことは疑いない。

その、大逆事件に仆れていった人々を、
「われは知る、テロリストの
かなしき心を——」

と唱った石川啄木は、同じ頃、
「五歳になる子に、何故ともなく

ソニヤといふ露西亜名をつけて、
呼びてはよろこぶ。」

と唱っている。勿論、ソニヤは『罪と罰』のソーニャである。

以上、思いつくままに日露のつながりについて挙げてきた。これからロシアないしソヴェトを学ぼうとする学生諸君の動機は多様であろうが、第一段階として、問題状況を全般的に知るためには、菊地昌典編『ソヴェト史研究入門』(東京大学出版会、1976年)が便利である。

わが国のロシア・ソ連関係の所蔵文献目録には次のようなものがある。

国立国会図書館編『播磨橋吉旧蔵書目録(国立国会図書館蔵書目録別冊第2)』、1960年。

北大スラヴ研編『欧文図書目録。1953～1965』、1966年。

早大図書館編『洋書目録。露文図書篇、第一編、明治15年～昭和40年』、1966年。

東大社研編『東京大学所蔵ロシア・ソヴェト関係図書目録』、第1—2冊、1958～1959年。

北大スラヴ研編『総合図書目録』、1—2〔A、B〕、1957～1958年。

同志社大人文科研編『ソヴェト産業史文献目録』、1964年。

一橋大学経済研究所編『一橋大学経済研究所雑誌目録、欧露文篇』、1965年。

いうまでもなく、図書館は貸本屋の姉さんではなく、人間の知る権利と、人類の叡知は公開であるという崇高な理念とに立脚した施設である。したがってそこで行われるすべての営為はオープンでなくてはならないという特殊な理由をもっている。学生諸君は上の文献目録から自分の読みたい本を探し出し、他大学の図書館からでも、それを借り出そうとする労を惜しんではならないであろう。

尚、本学図書館には、ソヴェト大百科辞典(Большая Советская Энциклопедия)が備えられている。

(教養・ロシア語)

■委員会報告

昭和53年度9回 54. 3. 2

- (1) 法経短大の図書館委員会の加入による規則改正案及び図書館経費の負担割合を承認した。
- (2) 図書館の基本問題のうち、人件費の負担方法、図書館委員会と維持費検討委員会の関係等の諸問題について意見交換をした。

昭和54年度1回 54. 5. 9

- (1) 昭和54年度の図書館経費について審議の結果、昨年度の編成方針と同様にして具体的な資料は次回に提出することとした。
- (2) 昭和55年度概算要求事項について審議の結果、1. 人員増、2. 電子計算機の整備、3. 複写装置の新設の3件について要求することとした。
- (3) 昭和54年度学生用図書購入費、参考用図書購入費、外国雑誌購入費の予算示達があった場合は前年度と同様指数で配分することを了承した。

昭和54年度2回 54. 5. 29

- (1) 昭和54年度図書館経費について審議の結果原案どおり承認した。
- (2) 昭和54年度学生用図書購入費指定用図書費の配分案について原案どおり承認した。
- (3) 昭和54年度図書資料(大型コレクション)の取書計画を文部省に提出することとした。

■附属図書館委員会構成委員 (昭和54年度)

学部等	区分	図書館委員会	
館	長	豊川卓爾	
分館	長	井本文夫	
人文学部		山本義彦	村松真一
教育学部		平野毅	須貝静直
理学部		下村道夫	梅沢敏郎
工学部		森田信義	
農学部		水野卓	岩川治
教養部		田村貞雄	鎌田哲宏
電子研		山口十六夫	渡辺健蔵
法経短大		松富弘志	
電子科学研		助川徳三	藤村全戒
本部		事務局長	
図書館		事務部長	

■昭和54年度編集委員

鎌田(教養部)、小島(理学部)、前畑、鷹野、長南、畠山、藤田、加藤

■利用統計 (昭和53年度)

(1) 利用者統計 (本館) 単位冊数

区分	閲覧 出納	貸出			合計	
		指定	開架	出納		
学部	人文学部	3,796	702	3,399	1,346	5,447
	教育学部	3,167	870	4,235	1,113	6,218
	理学部	313	1,006	1,948	115	3,069
学生	農学部	34	117	331	5	453
	人文学部	1,040	569	1,609	399	2,577
	教育学部	835	1,073	2,857	354	4,284
	理学部	531	1,241	1,600	131	2,972
	農学部	52	378	523	15	916
工学部	152	1,561	1,357	150	3,068	
院生等	377	55	305	145	505	
小計	10,583	7,572	18,164	3,773	29,509	
職員	教官	—	0	279	4,606	4,885
	職員	—	0	99	258	357
	研究員	—	—	—	10,293	10,293
員小計	—	0	378	15,157	15,535	
学外者	286	—	—	—	—	
合計	10,869	7,572	18,542	18,930	45,044	

(2) 分類別統計 (本館学生のみ)

区分	閲覧 出納	貸出			合計
		指定	開架	出納	
0 総記	127	38	370	50	458
1 哲学	407	352	1,062	463	1,877
2 歴史	623	589	1,448	383	2,420
3 社会	1,297	981	4,599	975	6,555
4 自然	306	3,911	4,773	306	8,990
5 工学	124	561	701	51	1,313
6 産業	260	112	257	163	532
7 芸術	140	178	601	116	895
8 語学	417	180	647	253	1,080
9 文学	1,569	670	3,706	1,013	5,389
雑誌	5,313	—	—	—	—
合計	10,583	7,572	18,164	3,773	29,509

(3) 浜松分館分類別統計

区分	貸出	区分	貸出
0 総記	205	5 工業	5,826
1 哲学	63	6 産業	3
2 歴史	55	7 芸術	41
3 社会	111	8 語学	48
4 自然	3,444	9 文学	276
		合計	10,072

お知らせ (本館)

1. 開館時間の延長

前期試験等のため、開館時間を延長します。

期間 9月5日(水)~29(土)

時間 月曜~金曜 17:00~19:30

土曜 12:00~16:00